





大正

風も志のうにありれまのバ人鳴こ

ぬ枝るのとけ死 柘是ハ柘天皇

子仕へある臣下あり 乃るも義法園

本泉郡子ガ一きなるお山く存由所

羨望寸家其ハ宣旨より 急きく了る系

まとの物流しまりせ 今濃洲本泉

郡へや言作 み行上 あらまるとや國と三民





も豊かきくく西のちちあぢぢの  
との地行いま秋やあまのうら  
れ壇は名をびしあは入中ち程なく  
書若の池はけははるまじく  
河も一づみのた山は松信する河  
もを水乃緑うれうよし洲た若  
の地行事やまきごうれ故人眠上

もやうさめさあハ云十た苑り  
心ち茅店れ月よりそあは板橋  
の霜よしうたれ白頭の雪ハ積まを  
老翁やあふさの川の氷や心を清  
むらし奥山の深谷れ下のたぢ  
うやなうれを汲さよまたえく  
長生の家よさうくおれをぬつち

五十一

五十二



あはたしうは是も年少於山恒の千代  
のたりしをまゝりき岩井れあは  
なまの老をのりこころ心こころ  
行まふも久しけれく  
若人は老ぬる事れし  
のるさふ、打るしにさう  
きつ及う親子のま、  
あはたしうは是も年少於山恒の千代  
のたりしをまゝりき岩井れあは  
なまの老をのりこころ心こころ  
行まふも久しけれく  
若人は老ぬる事れし  
のるさふ、打るしにさう  
きつ及う親子のま、

一を親子のまのあはたしうは是も年少於山恒の千代  
のたりしをまゝりき岩井れあは  
なまの老をのりこころ心こころ  
行まふも久しけれく  
若人は老ぬる事れし  
のるさふ、打るしにさう  
きつ及う親子のま、  
あはたしうは是も年少於山恒の千代  
のたりしをまゝりき岩井れあは  
なまの老をのりこころ心こころ  
行まふも久しけれく  
若人は老ぬる事れし  
のるさふ、打るしにさう  
きつ及う親子のま、



との宣旨はまうせこれまき物使所  
下つれ、ありとて書若と云付りめ  
一 渭と委やく ニテ こそし是は作ハ  
は尉、子ふらふつ約夕ハ山に入新  
をとらおおれまこく作前まあれ  
時山後のほしきもや此水ふふと  
なく詰るなりまふりつひまふり

もまき一 是つこれもたつ  
ツエカ ことちつら仙家乃薬の水も  
まの志つれつむ家路は汲ま  
父母はこれとありふま及の  
よりつらつらにわく若とも  
水の 知ぬの麻もあつりす  
ニ全 ころの寝をもはつてい



のりまゝのたゞもあはさず  
まゝいり子養老の跡と反中  
さるすいあり難や相今れ菜の水  
此瀧川のうらみくもえお在何のま  
やせ 湯とくみの滝つちのさ  
くわくわく岩もまらむ水もあは  
扱は是しと立らんみれまきたひ

寺よりの山の井れ 産るる水  
ま石の岩ほと成て若れうふ  
よちあまのたぢりまもまのあ  
ころりる薬の水 油は若と書小  
あり 老とつたやぶるまて  
威人の才にくまうとさるる  
近もは寿命もあまきあうあうた



ふとくは宮や玉水れみなりと澄る  
は代りとも流の末の赤おもて豊子  
まりなごり終りさく  
も蓬の端のと所寺世よしのたり  
雲いく葉氷まきまはふもほき  
まこれ氷少りあふるま  
まこれ氷少りあふるま

ふとくは宮や玉水れみなりと澄る  
は代りとも流の末の赤おもて豊子  
まりなごり終りさく  
も蓬の端のと所寺世よしのたり  
雲いく葉氷まきまはふもほき  
まこれ氷少りあふるま  
まこれ氷少りあふるま



秋風をききしや 晋乃七賢のたの  
いけい伯倫のもてあそびし此の  
子孫まじりくめやを地味薬を其の  
にゆくし曲水よりうまき石  
まさりてさくとも手はまら  
てふもさうする終て月夜を  
や上野半地山道の真れ水にゆく行き

人の養ひ 飲視の菊の水  
うら露の中ありし仙徳を  
よむ七百歳とみけ事も業たみと  
すゆを 空やを亭りこまく乃水  
艱い乃露の百も 千し年所少は  
天地れ 以てきし程の原末ま  
花子寺にるふ理り 具折ことし







事とおもすれまゝく  
治まる河代乃まゝく  
とたやうに五日の  
うきうき日のおくも  
玉水の薬の泉はよも  
の辛端やか 是とや  
一法の水はよもあは  
治まる河代乃まゝく  
とたやうに五日の  
うきうき日のおくも  
玉水の薬の泉はよも  
の辛端やか 是とや  
一法の水はよもあは

治まる

又ハ楊柳観音堂 神と云  
りい たくこれ又彼のへた  
治まる河代乃まゝく  
とたやうに五日の  
うきうき日のおくも  
玉水の薬の泉はよも  
の辛端やか 是とや  
一法の水はよもあは

上落

上落

上落

上落

上落

上落







